



■最近の話題

日本スリランカ技術交流セミナー現地視察が行われました

平成28年9月6、7日の2日間、「日本スリランカ技術交流セミナー現地視察」が中泊町、鶴田町、弘前市で行われました。この現地視察は、一般財団法人日本水土総合研究所（JIID）が主催した日本スリランカ技術交流セミナーに併せて行ったもので、スリランカからはスリランカ国かんがい水資源省のラトナヤケ次官をはじめ、3名の方が参加しました。

1日目は中泊町にある特産物直売所「ピュア」や町農業活性化施設、若宮機場、若宮幹線排水路、芦野頭首工を視察し、土地改良区におけるかんがい施設維持管理の取組やかんがい排水事業を中心とした地域活性化、地域の特産物を生かした6次産業化の取組について学びました。

2日目は鶴田町にある「鶴の舞橋」と「廻堰大溜池」を視察し、施設の概要や事業の経緯等について説明を受け、農村景観を活かした環境保護・地域活性化の取組について理解を深めました。その後、弘前市で農事組合法人鬼檜営農組合との意見交換を行い、営農組合の職員からは、ほ場整備事業の概要や効果、6次産業化の取組について説明がありました。スリランカ側からは、ほ場整備の事業制度や転作による所得の違い、また、りんごの保存方法や受粉方法、栽培方法についての質問があり、活発な意見交換が行われました。最後に、ラトナヤケ次官からは、「スリランカでは様々な要因により作物の多様化が進まない状況であるが、ほ場整備の効果を改めて認識できた。今回の視察は大変参考になった」との言葉がありました。



【りんご栽培を初めてみるスリランカの視察団】



【意見交換会の様子】

第1回農村を彩る花壇コンテストの最優秀賞が決定しました



【石郷みどり会の花壇】

平成28年8月25、26日に「第1回農村を彩る花壇コンテスト」の現地審査が行われました。このコンテストは、多面的機能支払交付金を活用した花壇づくりの優良な事例を広めて、農村での地域活動を促進することを目的に今年から開催されています。84組織から応募があり、1次審査を通過した8地区で現地審査を行った結果、花壇のデザイン性や管理状況等が高く評価された平川市の「石郷みどり会」の花壇が最優秀賞に選ばれました。

■「環境公共」事例紹介

十三湖地区（五所川原市・北津軽郡中泊町） ～ 十三湖水田地帯における環境公共の取組 ～

1 地区の概要

本地区は、津軽平野を流れる岩木川河口の十三湖付近に広がる1,000ha以上ある水田地帯です。かつては湿地帯が広がっていましたが、昭和20年代から40年代にかけて行った国営干拓建設事業により開田され、広大な水田地帯として営農が行われてきました。

しかし、開田以降、区画形状の変更はなく、暗渠排水も整備されていなかったことから、地元では、地域営農の将来を見据えて、ほ場整備事業を行いたいという機運が高まったため、平成27年度から県営経営体育成基盤整備事業に着手し、水田の大区画化や排水改良等の整備を実施しています。

また、事業着手に先立ち、平成26年度には、農業者、地元住民、PTA、関係機関等からなる「十三湖地域環境公共推進協議会」が設立され、事業における環境保全の取組や地域の環境意識向上に向けた取組を行っています。



【十三湖地区の水田】

2 活動内容

本協議会では、今年度、地元の薄市小学校の児童と一緒に、水田の排水路で生き物調査を実施し、その結果、ドジョウやハゼ等の生息が確認されています。また、地元小学校を対象にした「水と大地の探検隊」を実施して、地域の農業水利施設の見学や農業のために利用される水の流れ（岩木川の頭首工から水田に至り、河川へと戻って、また海へと流れ出る）、森林の役割を学んだり、地域に生息する生き物の観察等を行っています。



【児童たちによる排水路の生き物調査】



【農業水利施設の役割を学ぶ児童たち】

3 今後の取組

本地区は今年度より工事を開始していますが、生き物調査の結果を踏まえて、水田内の排水路等に環境配慮施設を設置することとしています。平成37年度まで事業を行うこととしておりますので、今後も地域連携のもと、環境公共の取組を進めていきます。

「環境公共」HP <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>